

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

2

2015
FEBRUARY

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



第12回 経営研究集会 Prat 3

第2分科会報告

「任せる」「認める」人材育成 「幸せづくりの出来る会社」をめざして

第3分科会報告

中小企業振興条例で地域内循環を高める

そうだ、
経営を楽しもう。
だから、
本気で向きあおう。

2014年度スローガン

「任せる」「認める」人材育成 「幸せづくりの出来る会社」をめざして

報告者：(有)笹木製作所 代表取締役 笹木浩二氏



自己紹介

1958年山形市に生まれ現在56歳、趣味はスキーと登山です。妻と次女と3人で暮らしており、長女は結婚して家の近くに孫2人と共に暮らしています。

会社は1986年、29歳で創業し只今27年目を迎えています。業務内容は創業時からの事業である鋳物用のシェル中子の製造と、11年前から取り組んでいる、砂型のアルミ鋳造の2本柱でやっております。社員は正社員6名、パート3名、それに私と妻と11名です。

埼玉県の川口市で、鋳物材料の営業を7年間しており、会社の社長からは大変目をかけていただいております。ですが、先輩達からはねたみ半分に「忙しくなるからあまり仕事を取ってくるな」などと言われ、社員の中では浮いたような存在でした。しかしお客様からは評価をいただいております、「うちの会社に来い」と誘われたり、独立を勧められることもしばしばありました。その中で、山形のお客様からの「仕事やるから戻ってきて会社をやらないか」と声をかけていただいたのをきっかけに、創業を決心しました。

何が悪いのか、誰が悪いのか

会社を創業してからは無我夢中で働きましたが、1991年のバブルがはじけて数年経った頃から、工業団地内の鋳物会社が次々と倒産し、気がつくとも半数になっていました。当社も少しずつ取引先が減り、とても不安になりお世話になっている社長に相談したところ、アルミ鋳造を勧められ手掛けることにしました。ですが、そのアルミ鋳造を手掛けた矢先、間借りをしていた鋳物工場が倒産し、急遽自社工場を持たなければならなくなりました。

工場を新しくするに伴って毎日が忙しく、アルミ鋳造は私一人で担当し、従来のシェル製造は信頼を寄せていた社員に任せていました。毎日、仕事の終わりには連絡・報告を

しあい、何も問題はないようでしたが、ある時お客様から「納期は遅れるし、不良の山だし、何をやっているんだ」と大変なお叱りを受けました。このトラブルは1件だけでなく、最終的には数社から取り引きを断られてしまいました。この時は、十数年かけてやっと築いてきた信用・信頼が、音をたてて崩れていくイメージが目に見えるようでした。

それでも何とか立て直そうと、その社員と話をしようとしたのですが、下を向いたまま「全く覚えていません。頭が真っ白です」の言葉しか返ってきませんでした。結果的にその社員は辞めていきました。

私は、「この業界はちゃんとした人が入ってこない、育たない」と投げやりになっていました。しかしある時、「もしかしたら、自分の経営に対する考え方が間違っていたんじゃないか」と思い始めました。

同友会との出会い

同友会には先輩経営者に誘われ、2011年10月に入会しました。また、山形同友会には社員共育委員会があり、悩みが解決するのではないかと思います。参加しました。

その社員共育委員会では、「あなたの会社では、しっかりした社員教育の仕組みはありますか？」「社員は、今の会社で働いて、良かったと思っているのでしょうか？」などの問いかけがありましたが、その言葉の意味が全然わかりませんでした。そんな中でも何かは掴みたいと、他の会社の成功した事例をメモに取り、すぐにできることをやりました。手探り状態でしたが、これらの取り組みは社員の考えが大きく変わるきっかけになりました。

2013年には「経営指針をつくる会」を受講し、大きな気づきに出会いました。受講中には「社員をまったく思っていない」「あなたの会社では働きたくない」「社長の思いが感じられない決算書だな」と言われました。その頃の私といえば、「他社がつぶれていても我社は生き残っている。俺は間違っていない、俺のルールを歩いてきてくれ」と、社員の話聞きもしませんでした。今思うと、本当はこの会社で一生懸命に頑張りたいと思っていた人もいたかもしれない。また、はっきりとしたビジョンがなく、夢のない会社だと思って辞めていった人もいたかもしれないと反省するところです。

しかし、仕事では、納期は絶対に守ろう、お客様が安心して使える製品を作ろうと取り組んでいましたので、取り引

きは多くなっていきました。徐々に技術的にも評価されて、いい方向に向かっていると感じながら、経営指針をつくる会を修了しました。

我社の経営理念です。

一、私たちは、鋳物に「魂」を注ぎ、信頼と技術で豊かさを創造します。

一、私たちは、「山形のものづくりの心と技を、次の世代につなげ、地域の明日に貢献します。

一、私たちは、鋳造を通して、お客様の喜びを誇りとしみんなで「幸せづくり」の出来る会社を目指します。

経営指針発表はしたもの

経営指針を作り年が明け、1月15日に経営指針発表会をしました。社員の反応は「社長の思いは伝わるが、具体的に何をすればいいんですか?」「内容がはっきりしていないので他に伝えられない」などの意見がでましたが、一人ひとりがちゃんと考えて返答してくれていると感じました。

更にこの指針を浸透するために、これまでの「黙って俺についてこい」ではなく、社員を認め、向かい合う必要性を感じました。そこから朝礼前の30分を「コーヒータイトム」と称して、一人ひとりと話をしました。

社員と一緒に勉強会にも参加し、徐々に社員が変わってきました。この時点で、これまで一番変化があった社員を朝礼委員長として、「経営理念を理解してもらおう方法を一緒に考えてほしい」と話をしたところ、やる気満々で取り組んでくれました。2か月が経った頃、「もっと理念の意味を理解してもらおうためになんかない?」と持ちかけました。その社員は経営理念の暗記と、「理念のどこを意識して仕事をしているか、仕事していくか」を挙げる取り組みをし、大きく成果がでております。

社員の成長

ある社員のことですが、元々は取引会社の工場長でした。しかし倒産してしまい、転々として我社に面接を受けに来ました。最初は断っていましたが、徐々に仕事内容が複雑になっていきましたので、鋳造技術1級資格を持っているその社員に入社してもらいました。

ただ、当時は仕事にバラつきもあり、わがままな職人も多く、喧嘩も絶えない状況を見て、「この会社も先が見えている」と他の社員に漏らしていたそうです。とにかく技術を向上させたかったので、わがままな社員には辞めてもらい、まったくの素人の若い社員を雇いました。すると、その若い社員たちは一生懸命に仕事をし、それを見た元工場長の社員も徐々に変わっていきました。そこで私は、「理念の“山形のものづくりの心と技を次の世代につなげ…”は、あなたを意識して作りました」と伝えたところ、とても感激してくれて、現在70歳を過ぎていますが一番元気に頑張っ

ています。

それから、以前コンピューター会社で働いていた社員もいます。その社員は入社したものの、力仕事が得意でなく、仕事に集中できませんでした。何とか自信を持ってほしいと思い、「得意のパソコンで個人の製造売上を集計できる表を作ってほしい」とお願いしました。その社員は早速次の日に作ってきてくれて、仕事終了後には全員でパソコンの前に座って、子供がおもちゃを触るようにワイワイやりながら数字入力をしていきました。

するとある変化が出てきました。1日200個しか製造できない社員が、他の社員の製造数を意識するようになり、2ヶ月後には300個こなせるようになりました。これはパソコンが得意な社員を通して、全体の意識改革にもつながっていったと感じています。

実行こそが夢への第1歩

社員共育委員会や経営指針作りの中での勉強は、参加しただけでは身にはなりません。やはり「実行するしかない」と感じています。今すぐできること、半年後、1年後、3年後、5年後にやることを、私が先に立って実行し改革・変革していかないと、経営理念にあげている「幸せづくりのできる会社」にはならないと思っています。

また、先月から企業変革支援プログラムも社内に取り入れています。社員一人ひとりが、どういう思いで会社に来ているか。そして社員が一緒になっていい方向に行くにはどうしたらいいのかを、プログラムを通してあぶり出して、期限を決めて改善策に取り組んでいます。

経営指針を作って1年が経ちました。実質、社員の歩みが進んでいると感じていますが、これからどうしたらいいのかを社員共育委員会で相談させてもらいました。返ってきたのは「しっかりした仕組みはありますか?」でした。目標を作ってあげる、仕組みを作ってあげる。できる人は自分ができたことを部下に教えられるように、自分も勉強しながら上の目標に向かっていく。できない人へは、できない問題課題を一緒に探り解決する。また、どこまでやるか、どうやるかの目標を作ってあげる。そこから、社員の目標と会社の目標が一緒になっていくことを学びました。

将来の夢の一つとして、社員の身内の人が、この会社で働きたいと思ってもらえるような会社にすることです。



中小企業振興条例で地域内循環を高める

報告者：本田興業(株) 代表取締役 本田 哲氏
(一般社団法人 倶知安観光協会 会長)

地元の人が集まり、楽しめる街づくり



北海道から来ました本田です。妻の両親の出身が尾花沢と山形で故郷に帰ってきたような思いです。地域活性を考えると、まわりの人が笑って過ごせる街にしたいとよく話しています。人口を増やすことも大切ですが、観光もそうです。地元の人が楽

しめない街にはお客さんは来ません。観光の話をする機会が増えていますが、笑いながら、楽しみながらやらないと、そういうリゾート地や観光地にならないと思います。

観光地や地域をつくるには、地域を構成している、住民、商店、企業と一緒に考えて考えなければならない。私が住んでいる人口15,000人の小さな町では、誰かがやらないと出来ない。住民全員が同じベクトルを向かかというとはならない。一人ではなく仲間を作り、企業を巻き込んでいくことが大切です。域内循環をし、地域を元気にしようとしたとき、言葉だけではなかなか人が集まらない。「中小企業振興基本条例をつくろう」と住民や行政、企業が集まるきっかけにした理由がそこにあります。

域内循環を高める仕組みとしての「条例」

ニセコや倶知安町には全世界から大勢のお客さまにきていただいています。特に来場は145万人、宿泊が143万人で、夏は2、3泊から2カ月以上長期滞在する方が500組います。ビジネスをリタイアした60歳以上のご夫婦のお客さまです。コンドミニアムには、ご夫婦の他に息子さんファミリーが遊びにきます。500組で1,000人ですが、8月は3倍ぐらいになります。冬は1週間以上滞在し、外で食事や買い物をしますので、倍以上にお金を使います。1ヶ月滞在したときに使うお金は平均で50万円です。

そういうお金が倶知安町や周辺にも落ちていきます。倶知安町に落ちるような取り組みにしてみると、お客さんは逃げます。これからの観光は、自分のところだけではなく周辺と一緒にやっていく必要があります。山形であれば、周辺の地域とどう取り組むかです。

現在、倶知安町の宿泊者数が過去最高を更新しています。連日、お金を使いますので、地域にお金が落ちるはずなのですが、現状は、不動産投資の90%は倶知安に落ちていま

せ。バージニア諸島にある投機会社に送金するなど、半分以上は日本にも落ちていません。北洋銀行に力を入れてもらい、送金するときは必ず地元の銀行の口座を利用する仕組みがつかれないか、振興条例でやりたいと思っています。

約200億円のお金が動いていますが、そのうち何割が地元に戻元されているか調査はしてはいないのですが、おそらく半分も落ちていないでしょう。できれば100%、地域に戻元する仕組みを作りたいということが、中小企業基本振興条例を作った大きな理由です。

2年前に町議会で声をあげたのが、当時、商工会議所の副会頭、商店会連合会の副理事、観光協会の副会長で議員だった方です。北海道同友会の守代表理事の記事を見て、「本田が同友会に入っている。これだ」ということで話が進みました。

この小さな町に大型スーパー、家電やホームセンターなどの大規模店舗がどんどん進出してきています。排除する時代ではなく、どうやって地元の商店と共存していくか、その実現をめざし、条例を使えるのではないかとということも制定の目的でした。

行政がエンジン

制定するにあたり、行政が中心となり、守代表理事を講師に迎え勉強会を開催しました。当日100人近い参加者で会場がいっぱいになり、「これは条例制定すべきだ」と一気に制定運動が始まりました。

全国でも、条例制定を提唱してきた同友会が中心となり、行政に働きかけている事例が多いと思いますが、倶知安町は、初めに声をあげたのが行政でした。

担当した行政職員の方がとても積極的で、「これはやるべきだ」と行政が中心になりました。これはめずらしいことです。メンバーは30代、40代の若い世代が中心になり、新しい視点で街を考えた条例づくりが始まりました。

特徴は農業関係者が入っていることです。倶知安町は農業で生きてきた街です。そのあとスキー客が増え、宿泊産業が伸びてきました。歴史的には基幹産業は農業で、主幹産業を観光にしようとしています。地域を作ってきたのは農業です。そのためにワーキンググループのメンバーに入っています。

H23年6月に立ち上げ、第1回目が9月にスタート。「中小企業振興基本条例って何?」、「なぜ作るのか」から始まりました。

交流人口が増え、お金を産んでいて地域を循環させなければいけない。大企業も入り、うまく地域づくりに活用していかなければならない課題もありました。

条例の特徴

前文に重きを置いた精神条例です。これからの地域づくりを指標として位置づけました。はじめに倶知安町の明治時代の歴史から始まり将来のビジョンを描いた前文を作成しました。条文作成の段階で、17回のワーキンググループを開催し、約1年半と短期間で条例が制定されました。それまでには、住民や各業種でヒアリングや勉強会を徹底的にやってきました。

条文作成で一番重視したことは、「地元振興」です。自分の街を知り、街の特徴をまとめるのに5回以上の会議を重ね、住民に周知しながら進めてきました。若い世代だから出来たことだと思います。

他の自治体では、行政や商工会議所の壁がありますが、倶知安町は、行政中心に進みました。普段から商工会議所の活動や地域の活動、役場の活動をやっているメンバーから委員を選びました。その彼らがやるのであれば、「大丈夫」と認められる素地がありました。半年でも制定は可能でしたが、住民や企業に認知してもらうために、あえて1年半かけました。多少、文言は変えましたが、議会の学習会、理事者の学習会でも通りました。

中小企業振興基本条例は、地域づくりの条例だと思っています。そう言う点で、メンバーは様々な地域づくりの活動をしていますので、企業の賛同もいただき、スムーズに進みました。

「大規模小売店舗等の設置に関する条例」の制定

大規模小売店舗法は、1,000㎡以上が該当するのですが、6月に「倶知安町大規模小売店舗設置条例」を作成し、倶知安町では700㎡以上を大型店としています。

地元の意見を無視し、大型店が法律ギリギリで駅前に出店した経緯がありました。今では大型店の出店時は協議の場をつくり、地元の意見を聞くようになってきています。大規模店は商機があるから出店しますので、地域づくりを前向きに捉えてもらいます。先月、北海道の地元スーパーの出店の話があり、観光協会の方、地元の方も入り、レイアウトや商品構成まで地元住民の意見を出しあいます。地域に溶け込んでこそ商売になると思います。大規模店を排除するのではなく、一緒に地域づくりに参加して欲しいことを謳っています。

地域づくりは人づくり

小さな町でも元気なのは、「条例」があり、倶知安町は将

来にむかって地域作りをしていることを発信しているからだと思います。

条例には2つの特徴があります。第1は農業について謳っていること。2つ目が教育です。「地元の人材づくりは地元企業の使命である」と謳っていることです。教育はその全て地域をつくっていくものです。一度地元を出て行っても戻ってきたくなくなるような地域づくりをし、郷土愛に溢れた人材をつくっていくことが中長期的には重要と考えています。

中小企業が担うことが条項にはいっています。これは、何をやるにしても、最後は「人づくり」に到達します。参考にしたのは横浜市の条例です。大都市横浜市の条例が15,000人の倶知安町にあてはまるのかとの議論がありました。横浜はペリーの来航からの歴史から始まり、将来を描いた条項で、地域の過去・現在・未来を写すものとなっています。

共存共栄のためのルール

条例は行政がエンジンとし動いてもらうことが要件となりますが、担当者の配属が変わっても、これまでの関わりや取り組みを持続していく仕組みが必要です。

条例制定後の諮問機関のような組織の立ち上げがスタートしています。域内の循環を高めて行くためにも委員会の存在が重要で、仕組みとして動かしていくことです。

「大規模小売店舗法」のように、戦略として分りやすく興味のあるものから条例にしました。そのために新しい委員会を立ちあげ、条例の運用や街の現状の情報集約をしています。

行政に新しい委員会を立ち上げることは我々がいくらがんばっても非常に難しいです。法律や条例があってもこそ品格のある街になります。会社でもルールがあるからいい会社になるのです。ルールのない会社は乱れ、レベルが低くなります。

厳しいかもしれませんが、街でもルールをしっかり作ってほしいのです。前向きなルールを作るためには、民間が突っ走っても、最後は行政力が必要なのです。今、民間と行政で新しい委員会を立ち上げていますが、「基本条例」制定後の実効の要は「行政力」です。全体で動かす仕組みが大切です。



わくわく
神奈川
つながる心

環境変化に対応できる地域、組織、仕事をつくろう

未来を創造する
企業づくりへの

挑
戦

第45回中小企業問題 全国研究集会のご案内

第45回中小企業問題全国研究集会が、3月5日から6日に横浜市で開かれます。

一日目は「情勢」「国際化と業種別戦略」「人を生かす経営の実践」「経営環境の改善」「見学」の категорияで18の分科会、二日目は「伝統と革新、100年企業の教訓」をテーマに、(株)崎陽軒 代表取締役社長 野並直文氏の記念講演が行われます。ぜひ、全国の仲間と学び合い、交流を深めましょう。

日時

2015年3月5日(木)13:00
～6日(金)12:00

会場

パシフィコ横浜会議センター

参加費 20,000円(懇親会費含・宿泊費別)

※参加申込み、お問い合わせは、山形同友会事務局までご連絡ください。

開催スケジュール

1日目

12:00 受付開始
13:00 分科会開始
18:00 分科会終了
18:30 懇親会開始
20:00 懇親会終了

2日目

9:00 全体会開始
9:30 分科会報告
10:00 記念講演
11:30 まとめ
12:00 閉会

新庄最上支部準備会2月会のご案内

新庄最上地域の経営者の方をお誘いください

そうだ、計画を作ろう

報告者：(株)菊池技建

代表取締役 菊池幸生氏

2015年2月24日(火) 18:15～

場所：最上広域交流センター「ゆめりあ」会議室
新庄市多門町1-2 ☎0233-28-8888

新庄最上支部準備会2月会は、山形同友会内だけにとどまらず、会外や金融機関からもその経営の取り組みが注目されています。(株)菊池技建 代表取締役 菊池幸生氏からの報告です。

「よいいえ」をつくるためにいい会社をつくる。いい会社をつくるためにいい社員を育てる。そのためには計画が必要で、計画を作るには「経営者の熱い思い」と「数値(見える化)」が重要と語る菊池社長。

会社を引き継いだ菊池社長が経営計画の必要性に気付いたきっかけ。立てた計画をどのように実行に繋げているか。そしてまた、次世代やその先へつなげる為のビジョンを報告します。お聴きのがしなく。

2月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

豊の可能性を拓く ～仕事の深堀をして見えてきたこと～

2015.2.13(金) 18:30～

場所：山形テルサ 2F リハーサル室
山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

報告者：(有)鏡豊店 代表取締役 鏡 芳昭氏(寒河江支部)

住宅様式の変化にともない、豊の需要が激減する中、「豊は成長産業か？衰退産業か？」を問われ、同友会で経営指針書を作成。自分が扱っている商品を知ろうと、日本一のイグサの生産地である熊本へ行き、豊の奥深さを知ります。歴史、原産地など、いろいろな角度から分析すると様々なことが、見えてきました。「たたみ文化の創造」を経営理念として、2007年に国産豊表を使った豊の普及拡大をめざして豊屋道場(株)を設立。熊本県八代市生産農家の方々と「高品質な豊表を使った国産豊の企画開発とその施工販売ネットワークの構築」を図る事業が農商工連携事業に認定されました。現在、海外での豊の可能性を追求し、豊と空間・ライフスタイルの物語づくりに取り組み、「新しいたたみや」に挑戦する鏡氏の報告に学び合います。

庄内支部

悩みを改善可能な課題に変換しよう ～企業変革支援プログラムSTEP1で、課題と改善策を見つけよう～

2015.2.18(水) 18:30～

場所：鶴岡市総合保健福祉センター『にこ♥ふる』
鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

講師：社員共育委員会 委員長 阿部和人氏

同友会には、例会や学習会の他にも、経営に役立つ様々なツールがあります。その中でも全国の多くの会員に使われている、「企業変革支援プログラムSTEP1」があります。

庄内支部2月例会は、社員共育委員会 阿部和人委員長(田宮印刷(株)常務取締役営業部門統轄)を招き、「企業変革支援プログラムSTEP1」を実際に使ってみながら、自社の課題に気づく例会を企画しました。経営者の悩みは尽きないものです、ですが悩んでいるだけではなかなか解決しないものです。悩みの中から課題を見つけ出し、改善する方法を探り、確実に実行して会社をよくしていきましょう。

是非お知り合いの経営者さんをお誘いの上、ふるってご参加ください。

さくらんぼ支部

モノづくりは、人づくり ～全社員と共につくり上げてきた「エツキ丸」を引き継いで～

2015.2.19(木) 18:30～21:00

場所：東根市職業訓練センター
東根市中央1-3-1 ☎0237-43-2345

報告者：(株)エツキ 代表取締役社長 早坂幸起氏

寒河江支部

同友会でよく聞く、皆が大事っていう 「経営指針」って何？

2015.2.16(月) 19:00～21:00

場所：寒河江市技術交流プラザ
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：やまがたシティエフエム(株) 代表取締役 青柳等氏(山形支部)

同友会に入会すると、いろいろな所から聞こえてくる「経営指針」。大事なものでっていうのは、解るけど、そもそも「経営指針」そのものが何だか解らない。

経営指針を作成した人から「良かった」という声を聞き、受けてみたいと思う気持ちはあるけれど……。どんな中身なのか、会社にとってどんな効果・影響があるのかが解らない。それならば、きちんと会社経営に活かしている先輩に訊いてみましょう。そして自社・自分に必要だと感じるのであれば次年度是非受講しましょう。寒河江支部2月例会では、第12期経営指針修了生の青柳副代表理事より経営指針についてお話をさせていただきます。この機会に奮ってご参加ください。

置賜支部

会社は組織で動いていますか？ ～社員の自主性を引き出す仕組みづくり～

2015.2.18(水) 18:30～

場所：伝国の杜
米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者：(株)ベーカリー中村屋 代表取締役 志田清志氏

2012年に四代目の社長に就任。自らがプレーイングマネージャーとして奮闘するも同じことの繰り返しで何も変わらない。「毎日、売上はある」「社員も一生懸命やっている」のに、何故かお金が残らない。自問自答を繰り返す中で、行動出来ない自分に気づき、自分づくりと組織づくりに取り組みます。そして、昨年の支部例会で社員の自主性を発揮するためには、権限委譲と自主的目標管理が必要であることを学んだ志田氏は、会社に持ち帰って自主目標を設定してもらうことから始めました。「出来ない」から「どうすれば出来るかを一緒に考える」ことを大切に、可能性を信じて行動する人を増やそうと邁進する志田社長の報告をもとに、社員の自主性を引き出す仕組みづくりについて考え合います。

社長に就任してすぐ直面したリーマンショック。急激に悪化した経営状態を何とか立て直すために、創業者で父である会長と全社員が一丸となって突き進んできたこの6年間。しかし、創業社長のようなカリスマ性は持ち合わせてはいないし、技術面でも到底先代にはかなわないと言う早坂社長。会社を立て直すために、社員が働きやすい労働環境の整備や先代からの幹部社員との関係構築、人材育成(新たな幹部社員の育成)などを進めてきました。その結果、ようやくリーマンショック前に近い売上高まで回復し、しかも収益など経営内容はリーマンショック前よりも良くなるという結果に。

「モノづくりは人づくり」「お客様のために社員を犠牲にしてはダメ」という理念の下、どんなに厳しくても解雇者1名も出さずに経営してきた早坂社長の、社員との関わりや社員教育・人材育成について、これまでの取り組みと今後の方向性について報告して頂きます。

第10回理事会報告

◆日時:2015年1月14日(水)14:00~16:00 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:齋藤専務理事
◆出席:西塔、青柳、後藤、齋藤、阿部(秀)、阿部(和)、佐藤(一)、佐藤(松)、安藤、奥山、玉津、小林、越前屋、伊藤、川合(敬称略)伊藤(由)、矢作、高橋(事務局)

■代表理事挨拶(西塔代表理事)

■報告事項

- 1)全国事務局長会議(12/12~13)の報告(伊藤事務局長)
- 2)中同協第3回幹事会(1/9~10)の報告(西塔代表理事)
- 3)山形大学キャリア教育ワークショップ(1/9)(矢作事務局次長)
- 4)共同求人委員会(東北文教大学、山形大学訪問の報告 玉津理事)
・理事の方へのJobway登録の依頼
- 5)米沢市中小企業振興条例制定の件(佐藤理事)
- 6)第27回社員教育活動全国研修・交流会(2015/11/19~20)について(阿部理事)
- 7)2014年度12月月次決算報告(伊藤事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 入会2名、退会3名 1/14会員数 427名

■確認事項

- 1)2015年新春交流会の件(阿部(秀)実行委員長)
 - ①参加状況の報告と目標達成のために参加動員の依頼があった。
 - ②ゲスト参加者の参加呼びかけのお願い
- 2)新庄最上支部準備会1月会(1/16)の件(齋藤専務理事)
取り組み状況の報告と参加、ゲスト紹介の依頼があった。

■討議事項

議題1:第12回経営研究集会のまとめ(提案:齋藤専務理事)

記念講演、分科会の学びの特徴や実行委員会の活動をとおり、自治体とのつながりが広がったこと、会員増強の成果など6点をあげた。収支報告については、参加費で運営出来たことが報告され承認された。

議題2:規約改正(案)、理事会運営規程改正(案)、役員選考規程の件(次回再検討)

議題3:第31回定時総会の件(提案:西塔代表理事)

西塔代表理事より、3つの開催目的について提案があり承認された。第1次予算案が提案され、案内チラシ等を入札することが決定した。開催要項等について、伊藤実行委員長より提案があり、タイムスケジュール等が決定した。

- 日時:4月23日(木)13:30~
- 会場:ホテルメトロポリタン山形

議題4:議案書起草について(提案:西塔代表理事)

- 1)2014年度活動のまとめ(骨子案)次回検討
- 2)2015年度スローガンと4つの重点方針(案)、全県行事、4委員会合

同会議などの2015年度事業計画(案)を決定した。

2015年版会員名簿の作成や、会費値上げについては、次回理事会で検討することとなった。

新年度の常任理事等の役員(第1次案)の提案があり承認された。理事候補について、各支部・委員会・部会から推薦してもらうことを確認。また、全会員に公募する。

議題5:会員増強の取り組みについて(提案:安藤理事)

第3回増強月間(2月)の取り組みについて提案され、活動として下記の内容が決定しました。

- ①これまでリストアップした280名の方を対象に、各支部で入会に結び付けるための具体的な行動(訪問・例会のお誘いなど)をする。
- ②その行動の結果や進捗状況を事務局に報告する。
- ③新庄最上支部の紹介者リストをもとに、訪問や入会のアプローチを各支部に協力をお願いする。

議題6:外形標準課税の学習会の件(提案:青柳副代表理事)

開催要項等が下記の内容と別紙資料のように決定。山形・寒河江支部合同例会として開催するが、全支部に案内する。

開催要項

- 日 時:3月26日(木)18:30~21:00
- 会 場:山形ビッグウイング 4F 中会議室
- 講 師:立教大学 教授 山口義行氏
- テーマ:外形標準課税導入の中小企業への影響(仮称)
*座長:青柳等氏、室長:後藤智樹氏

■経営体験報告 座長:小林理事

- 1)報告:㈱エム・エス・アイ 専務取締役 佐藤一夫氏
(1997年入会 社員共育委員会)

月	報告者	座長
2月	伊藤 誠氏	

■その他

- 1)第45回中小企業問題全国研究集会(3/5~6 神奈川)の件
- 2)第11回理事会日程
 - 日時:2月13日(金)午後2時~午後4時
 - 会場:山形県産業創造支援センター

■閉会挨拶(青柳副代表理事)

新会員紹介

◎石川 晴久氏

(株)南陽総建 専務取締役
業種 土木一式、舗装、不動産仲介業
置賜支部

◎行方 千代子氏

(有)羊肉のみかた
業種 羊肉販売、レストラン、ネット販売
置賜支部

同友やまがた2月号(2015年2月1日発行/通巻263号)

From Editor

★2015年11月に、「第27回社員共育活動全国研修・交流会」が、山形同友会で開催されます。2005年の設営以来10年ぶりに担当することになります。2005年の開催を機会に、委員会の名称を「社員教育委員会」から「社員共育委員会」に変え、社員共育の活動は、山形同友会と言われるようになりたいと語りあったものです。★当時、「労使見解」と1994年に発行された「21世紀型企業づくりをめざして中小企業の経営課題」の冊子をもとに、同友会がめざす社員共育の原点を学びました。今でも、社員共育の活動にその精神が受け継がれています。★最近、2年前の2月に亡くなった大久保さんがよくお話しされていた「積極的な謙虚さ」を久しぶりに聞く機会がありました。大

久保さんは、北海道同友会の初代事務局長をされ、その後専務理事、代表理事を歴任し、北海道同友会を大きく発展させ、日本の中小企業運動になくはならない方でした。★山形の定時総会などで何回かお話ししていただき、爽やかな口調のなかに難しい言い回しがあり、本質を掴むのに、いつも宿題を出されたような思いでした。全国に先駆けて社員共育活動、共同求人活動を取り組み、「激動の時代に生きる力をつけるためには、労使が共に現代に生きる人間としての総合的な能力をつける」という共育理念を確立した北海道同友会。あこがれる同友会です。大久保さんの書籍や講演録を多くの方に読んでいただき、その精神を広げていきたいものです。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:info@yamagata-doyu.jp